

宮本寛爾教授のご退職に際して

春の訪れとともに、今年もまた本学部で永年教育・研究に携わってこられた先生をお送りしなければならない時期となりました。

宮本寛爾教授は2001年（平成13年）3月31日をもって本学を退職されることになりました。

教授は1962年（昭和37年）に関西学院大学経済学部をご卒業後、関西学院大学大学院商学研究科修士課程を修了され、その後博士課程に進まれ、また米国ミシガン州立大学大学院経営学研究科で MBA (Master of Business Administration) を取得されました。関西学院大学商学部助手として勤務された後、大阪学院大学商学部専任講師、助教授、教授を歴任され、1989年（平成元年）に母校である関西学院大学商学部の教授に就任されました。その後現在に至るまで12年間にわたり、商学部の教育・研究と行政に力を尽くされました。

宮本教授は、初代商学部長で、かつ我が国会計学の重鎮として著名な故青木倫太郎教授のまな弟子として薫陶を受けられました。管理会計学の分野の中でもとりわけ国際管理会計、多国籍企業管理会計の分野で多数の著書、論文を発表なされ、優れた業績をあげられました。『多国籍企業管理会計』（1989年（平成元年）、中央経済社）により商学博士の学位を授与され、また、日本会計研究学会より太田賞を受賞しておられます。教授の厳格で精緻な研究姿勢は私達が永く模範とすべきものであると思います。

教授が優れた教育者でもあることは本大学院において多くの若手研究者を養成し、また学界に送り出してこられたことから知られるところでもあります。また、学内の種々の将来計画の立案の中心となられ、学部行政に重要な寄与をなされたことも忘れることが出来ません。教授の誠実で温かいお人柄は私達の等しく敬服するところでもあります。

宮本教授のご退職にあたり、永年にわたる商学部ならびに関西学院大学の教育、研究、行政に対する多大のご貢献を称え、ここに記念論文集を刊行し、深い感謝の念とともに捧げることができますのは私達の大きな喜びであります。先生の今後益々のご健勝と教育・研究者としてのご活躍を心からお祈り申し上げます。

終わりにあたり、この記念論文集の刊行に際してご執筆いただいた先生方、また編集にご努力いただいた商学論究編集委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

2001年3月

商学部長 杉原 左右一